

## 第24回 日本動物児童文学賞の受賞者及び入賞作品

第24回日本動物児童文学賞には、99作品の応募があり、児童文学関係学識経験者（池川禎昭（現代日本少年文学の会主宰））による第1次審査を経て、動物福祉・愛護関係学識経験者（木村芳之（日本獣医師会理事、動物福祉・愛護部会長）、会田保彦（日本動物愛護協会常任理事）、齋藤 勝（日本動物福祉協会副理事長）、椎野雅博（日本愛玩動物協会副会長）、須田沖夫（東京都家庭動物愛護協会会長））や関係省庁関係者（西山理行（環境省自然環境局総務課動物愛護管理室長）、田中孝一（文部科学省初等中等教育局主任視学官））等からなる第2次審査委員会を7月30日開催し、下記のとおり入賞作品として、大賞1作品、優秀賞2作品、奨励賞5作品が選定された（表彰式の模様は845頁参照）。

## 入 賞 作 品

## 【日本動物児童文学大賞】

## 「里山のシカ」

沖 義裕（茨城県）

〈受賞理由〉シカによる林業被害対策と野生生物保護の両立の難しさと希望が表現されたスケールの大きな作品。祖父から父、父から子供へと三世代に渡り、動物を愛する心が伝えられているのも良い。

## 【日本動物児童文学優秀賞】

## 「エリー、いっしょに歩き出そう」

高森美由紀（青森県）

〈受賞理由〉東日本大震災を題材とし、飼い主と離れ離れになってしまった犬に、病弱な少年が励まされ、心身共に立ち直っていく作品。随所にきめ細かい描写があふれ、犬と少年の交流、父と母それぞれの愛情表現もうまく表現されている。

## 「ミーコの午後」

叶 昌彦（千葉県）

〈受賞理由〉猫を中心として、認知症の老人とその家族や近所の人達との会話の中に、思いやり、優しさが感じられる作品。日常生活の描写もユニークでさわやかな読後感をおぼえる。

## 【日本動物児童文学奨励賞】

## 「ロッキーとクリーム」

芦沢美樹（静岡県）

〈受賞理由〉両親を交通事故で失い、叔母の家に引き取られた少年が、動物園のホッキョクグマの観察を通して立ち直り、同じストレスを抱えた少女と心を通わせていく様子が、ホッキョクグマのロッキーとの対比でうまく描かれている作品。動物園の効果（意義）と問題点を指摘しながら、少年の心の回復と成長も描かれ、現代の児童教育現場がよく表現されている。

## 「ソラマメの木」

阿部羅かおる（大阪府）

〈受賞理由〉少年探偵団のような冒険小説的な子供が読んで楽しい雰囲気もある一方、パピーミル、動物愛護センターも登場し、動物飼育前に十分に考えて犬を選び、責任を持って最後まで適正に飼うことの大切さ、物言えぬ動物達の悲しさ、いとおしさが感じられる作品。

## 「猫おぼさんのコーヒーショップ」

栗栖ひろみ（埼玉県）

〈受賞理由〉輪禍の野良猫に慈しみを施した、猫が大好きなおぼさんが、恩返しを受け大成功する、現代版「鶴の恩返し」のような作品。おとぎ話、童話として面白い。

## 「どこへいくの？」

## ～あるミニチュアダックスの兄弟の物語～

水沢稚津夫（東京都）

〈受賞理由〉プームの同胎犬を主人公に、飼い主によって犬・猫の幸・不幸かの一生が決まるという当り前のことを今さらながら思い知らされる作品。

少し悲しい、寂しい内容だが、飼う以上は責任を持って飼って欲しいという主旨がよく描かれている。

## 「約束、勇太のさくら」

高杜利樹（宮城県）

〈受賞理由〉東日本大震災の際の、地震・津波の恐怖の状況や家族の安否等が、リアルに描かれ、犬が家族の一員であることがよく伝わってくる作品。

大震災の現状を子供の目からみて、家族の絆、飼い犬との再会で再生の夢等、希望の持てる内容も良い。

なお、入賞作品のうち大賞、優秀賞作品を収載した「第24回日本動物児童文学賞受賞作品集」をご希望の方（1人1冊に限る）は、住所、氏名、電話番号、上記作品集希望と明記の上、切手390円分（送料）を同封し、下記送付先へお送りください。

〒107-0062

東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館23階  
公益社団法人 日本獣医師会 事務局  
「第24回日本動物児童文学賞受賞作品集」希望

## お問合せ

☎03-3475-1695 FAX 03-3475-1697

E-mail : hokankyo@nichiju.or.jp

